HAL Event Week

SNS APP

A.Yamamoto

- 今回の目標
- 設計
- 開発
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

- 今回の目標 👈
- 設計
- 開発
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

今回の目標

• Hello PHP!

Hello Laravel

Hello CI/CD

- Modern React
- Stop! 猛コード・ノーテスト開発

今回の目標

完成形



- 今回の目標
- 設計 *>
- 開発
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

要件定義

• Githubへ設置

メールアドレスとパスワードを利用して ユーザ登録ができる	ユーザ情報 認証	High
ユーザ名とメールアドレス、パスワード を変更できる	ユーザ情報 認証	
ユーザ登録後にタイムラインへ画面遷移 できる		
ログイン/ログアウトができる	認証	High
一定時間(2h)放置したら自動でログアウト		
メッセージ投稿ができる	メッセージ	High
いいねができる	メッセージ いいね	High

DB 設計

		users		
ユーザID	id	CHAR(36)	PK	バックエンドでUUID生成
ニックネーム	name	VARCHAR(64)	NN	日本語英語問わず64文字上限
メールアドレス	email	VARCHAR(255)	UQ, NN	NN
パスワード	password	VARCHAR(255)	NN	8 文字以上 32 文字以下 ハッシュ化するので変わりうる
登録日時	created_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する
更新日時	updated_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する

DB 設計

		messages		
メッセージID	id	CHAR(36)	PK	バックエンドでUUID生成
本文	body	TEXT	NN	日本語最大140文字
投稿日時	created_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する
更新日時	updated_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する
ユーザID	user_id	CHAR(36)	FK	users.id

DB 設計

		favorites		
お気に入りID	id	CHAR(36)	PK	バックエンドでUUID生成
登録日時	created_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する
更新日時	updated_at	TIMESTAMP	NN	JSTで格納する
ユーザID	user_id	CHAR(36)	FK	users.id
メッセージID	message_id	CHAR(36)	FK	messages.id

URL 設計

OpenAPI スキーマとして吐き出したものをGithubに設置

Swagger UI

画面設計

Figma

Export した SVG をGithubにも置いてあります

- 今回の目標
- 設計
- 開発 👈
 - フローなど >
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

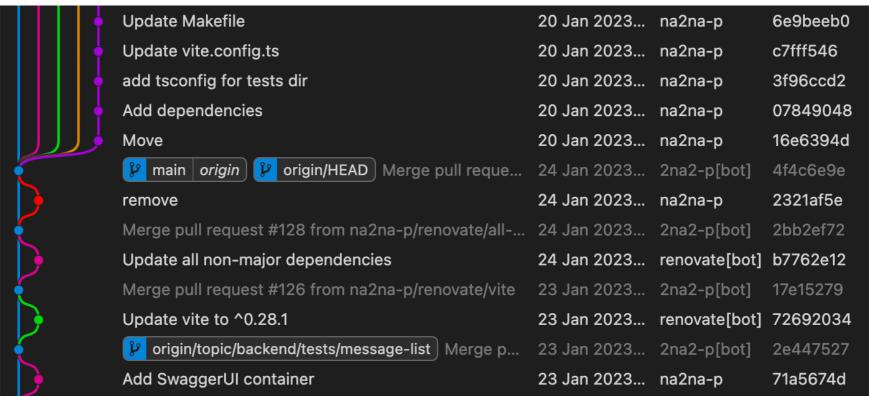
フローなど

- Github Flow を採用
- マージコミットを産んでいいのは PR のマージの時だけ
- マージする前にベースになるブランチは最新にしましょう
 - 最新のベースブランチでリベースしよう

環境

エディタ	IntelliJ IDEA Ultimate / VSCode
バックエンド	Laravel 9 + PHP 8.2.1 (sail 利用)
フロントエンド	React 18 + TypeScript 4.9.4
データベース	MySQL 8.0
インフラ	AWS (IaC 利用、バックエンド) / Cloudflare (バックエンド, フロントエンド)
CI/CD	Github Actions(GitHub-hosted)
認証	Session Auth

フローなど



15 / 43

- 今回の目標
- 設計
- 開発 👈
 - フローなど
 - CI/CD 準備 👈
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

CI/CD 構築

- 今回は Public Repository で開発
 - GitHub-hosted Runner を利用
 - GitGuardian による機密情報漏洩チェック
 - ライブラリのライセンスチェックはなし(主に GPL 系ライセンス)

CI/CD 構築

- ライブラリ等の更新は Renovate に丸投げ
- バックエンドではテストで利用するコマンドを質問して Makefile から利用可能に
- Node.js 環境で使う CI はなんとなく理解してるのでサクッと
- フロントエンド CD は Cloudflare Pages へ。ビルドテストも兼ねています。
 - デプロイ後はキャッシュパージしましょう
- バックエンド CD は AWS EC2 へ
 - SSM を利用して Run Command することで自動更新

CI/CD 構築

- Branch Protection ルールをよしなに設定
 - 最低 1 名の Approve を必要に
 - 抜け道として Bot に Approve させたりしました
 - 設定の終わったテスト系から順次 Required へ
 - コミットに署名されていることを強制
- 全部の条件を満たしたら Bot が勝手に Merge するように

CI/CD 構築

`terraform plan`



CI/CD 構築

PR のたびにこういう光景が広がります。これでも見切れていますが。モノレポの辛いところ

✓ Cloudflare Pages / Publish (pull_request) Successful in 1m		Details
✓ Enable auto merge / enable-auto-merge (pull_request) Successful in 6s		Details
✓ Pull Request Labeler / triage (pull_request_target) Successful in 5s		Details
✓ ▼ Terraform Plan / EC2-Plan (pull_request) Successful in 32s	Required	Details
✓ ▼ Test(Backend) / Test-Backend (pull_request) Successful in 7m	Required	Details
✓ Test(Frontend) / Lint-Frontend (pull_request) Successful in 1m	Required	Details
Cloudflare Pages / CachePurge (pull_request) Skipped		Details
✓ ▼ Test(Backend) / Lint-Backend (pull_request) Successful in 4m	Required	Details
✓ 🍞 GitGuardian Security Checks Successful in 1s — No secrets detected 🗸	Required	Details

- 今回の目標
- 設計
- 開発 👈
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築 🁈
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

- Laravel で API サーバの構築
- CORS の設定周りがかなり雑になってしまった

バックエンド構築

• 初期からある認証用ミドルウェアでは不満があったので、自前で作成したものを適用

バックエンド構築

• ルーティングはまとめてスッキリ書こう(一部抜粋)

```
Route::prefix('/v1')->group(function () {
         Route::middleware('sessionAuth')->group(function () {
             Route::prefix('/users')->group(function () {
                 Route::controller(UsersController::class) -> group(function () {
                     Route::get('/me', 'findUser');
                     Route::put('/me', 'updateUser');
                     Route::put('/me/password', 'updatePassword');
                 });
             });
             Route::prefix('/messages')->group(function () {
10
                 Route::controller(MessagesController::class)->group(function () {
11
                     Route::post('/', 'createMessage');
12
                     Route::get('/', 'listMessage');
13
14
                 });
                 Route::put('/{messageId}/favorite', [FavoriteController::class, 'addFavorite']);
15
             });
16
        });
17
    });
```

- Eloquent の`with`便利
- Eloquent Model の良さを殺さない書き方をしましょう
 - 必要な時以外できる限り query, select を使用するのは避ける

- OpenAPI のスキーマ生成を Laravel の実装から行うように
 - `"vyuldashev/laravel-openapi": "^1.8"`を利用しました
 - 出来上がったスキーマをもとにテストが生成できたら嬉しい
 - リクエスト飛ばすためのツールもスキーマから一発で大体の設定が終わって嬉しい
 - ローカルで SwaggerUI 確認しやすくなって嬉しい
 - フロントエンドもスキーマ駆動で開発できて嬉しい

- テスト実装
 - DRY 原則に背いたテストコードを書くことも多々ある。むしろ愚直に書くべき。
 - 更新後の値もきちんと確認しよう、更新できて終わりではない
 - テストの意図が伝わりやすいテストを書こう
- カバレッジは確認しておこう
 - 今回は1箇所の漏れに気づけた

- 今回の目標
- 設計
- 開発 👈
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築 🁈
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り

フロントエンド構築

- TypeScript で書く
- MUI 利用
- フォームには下記を利用
 - react-hook-form
 - yup

フロントエンド構築

- スキーマ駆動開発で幸せになりましょう
- 型は Orval によって自動生成
 - 自動生成された TanStack Query のクライアントが壊れていて使い物にならなくて悲 しい

```
export type GetApiV1Messages200Item = {
   id: string;
   body: string;
   created_by: string;
   created_at: string;
   isFavorite: boolean;
   favoritesCount: number;
};
```

フロントエンド構築

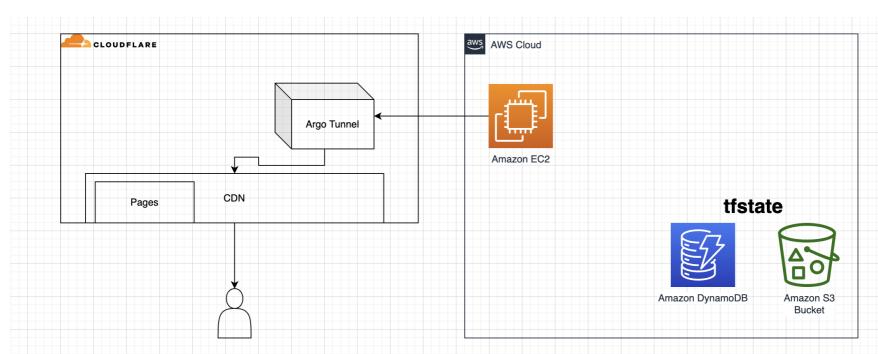
• テスタブルな Component/Hooks 実装をしましょう

```
1 // 内部でコンポーネントを呼ぶHook
2 const useHooks = (
3 {
4 handleClick,
5 }: {
6 handleClick: () => void;
7 },
8 HogeComponent: FC<HogeComponentProps>
9 ) => {
10 React.createElement(HogeComponent, {
11 onClick: handleClick,
12 });
13 };
```

- 今回の目標
- 設計
- 開発 👈
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築 >
- デモ
- 振り返り

インフラ構築

とてもかんたんな構成図



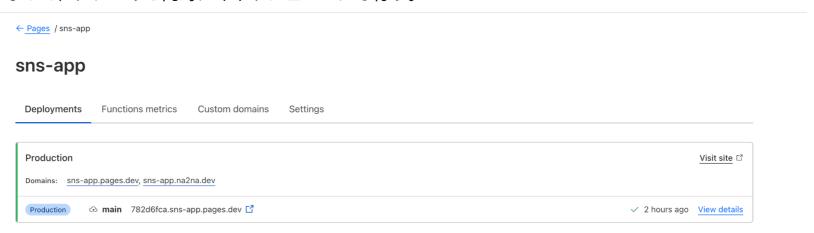
インフラ構築

AWS EC2 は IaC 利用しました。 tfstate は S3 で管理し、DynamoDB を利用して排他制御をしています。

排他制御の影響で main からリベースしたものを矢継ぎ早に force push すると CI 上で動かしている `terraform plan` が落ちる...

インフラ構築

フロントエンド
 Github Actions でビルドして、Cloudflare Pages ヘデプロイ。
 CDN なので、デプロイと同時にキャッシュパージも行う。



インフラ構築

バックエンド

EC2 + Cloudflare Tunnel で構築

気持ち的には ECS だったが、イメージ作成が辛そうだったので見送り

sail の使ってるのが php のビルトインサーバだったと思うので、本格的にやるならば避けるべきだと思う



インフラ構築

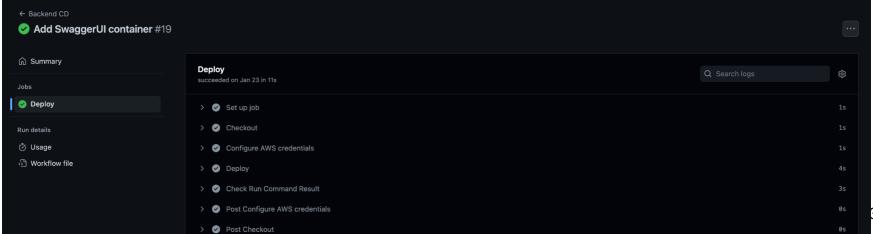
- バックエンド
 - Cloudflare Tunnel を使ってることで、ポート解放が不要に



• 本当なら Public IP も必要ないけれど、SSM 周りがうまくいかなくなったので一旦そのままに

インフラ構築

- バックエンド
 - CD 関係では巷でよく見かける、デプロイのタイミングでインバウンドルールに穴を開けるのではなく、 SSM で Run Command するようにしています。
 - それ用の Policy / Role を拵えるのも IaC でやってます。



インフラ構築

Cloudflare の WAF もこんな感じで簡単にセットができます

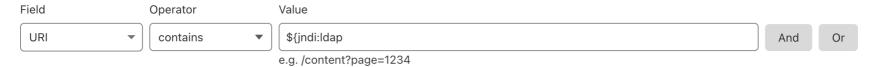
画像が一時期話題だった LOG4J のあれこれの時に仕込んだものです。

簡単すぎるから突破されていそうというのと、CF がデフォルトで対策していそう

Edit firewall rule

3 Billion Devices		
	escriptive name	

When incoming requests match...



- 今回の目標
- 設計
- 開発
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ *>
- 振り返り

- 今回の目標
- 設計
- 開発
 - フローなど
 - CI/CD 準備
 - バックエンド構築
 - フロントエンド構築
 - インフラ構築
- デモ
- 振り返り →

振り返り

- Laravel バックエンドの構築について
- テスト設計
- REST API の設計について
- インフラ周り
- 総括